

02 フェーズフリーの具現化の実践

担当教員： 秦 康範（工学域・地域防災学）

： 大山 勲（生命環境学域・景観まちづくり）

1.概要

本地域課題解決科目は、本実習では、学生の自発的活動として、フェーズフリーの概念を理解し、その具現化を通して地域創生に関わる課題の発見と解決策の提案を行うという一連の学習により、問題解決の技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に付ける。

2.課題解決の方法

フェーズフリーとは、防災に関わる新しい概念で、日常時と非常時という社会のフェーズ（時期、状態）を取り払い、普段利用している商品やサービスが非常時に適切に使えるようにする価値を表した言葉である。フェーズフリーな商品・サービスが社会の中で増えれば、非常時の不便さが軽減され、普段使いの快適さも失われない。言い換えれば、どちらのフェーズでも生活の質(QOL)が確保される。非常時にどのような困難が起こるかを、日常の生活の中でリアリティをもって思い描くことの困難さを示したものである。イメージできない事柄に対して、適切な備えをすることは難しい。このように考えると、社会に求められているのは、「防災のための特別なモノ」ではなく、普段の生活の中で自然に使い、さらに非常時にも役に立つモノなのだ。フェーズフリーなモノが社会に増えることにより、人々の防災意識向上に頼らなくても、災害に強い安全で安心な社会が実現できる。これが、「フェーズフリー」の考え方である。

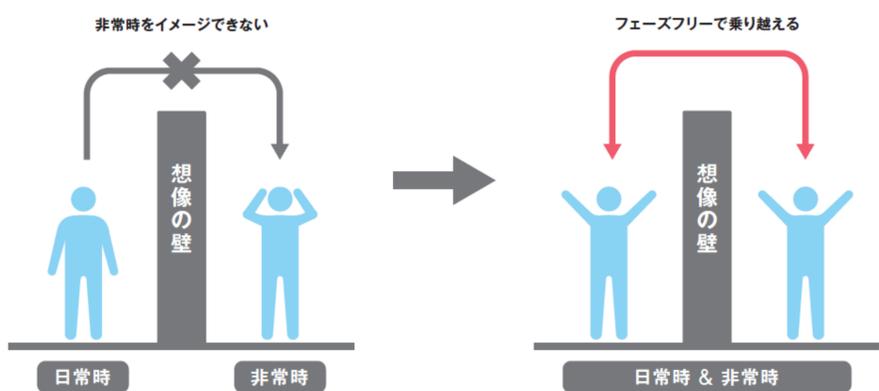


図1 日常時と非常時の想像の壁とフェーズフリーの概念図

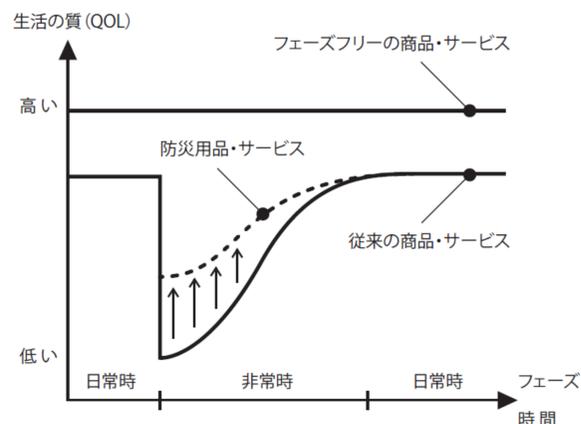


図2 フェーズフリーと従来の商品・サービスにおける時間と生活の質の関係

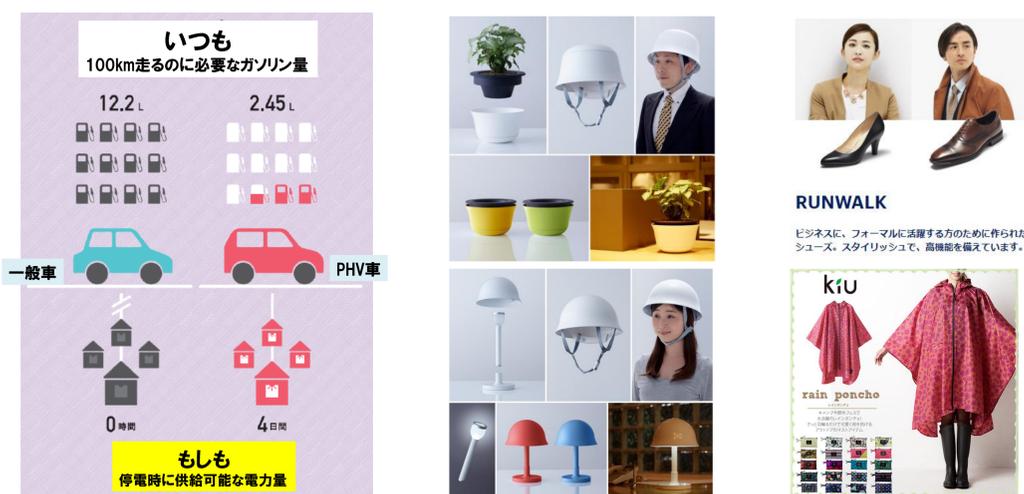


図3 フェーズフリーな商品（左：PHV車、中央：ヘルメットになる植木鉢や電灯、右：走れるビジネスシューズ・パンプス、プライバシーに配慮したポンチョ



図4 フェーズフリーアワード2021年度 受賞対象

3.成果

本地域課題科目は、学生の自発的活動として、地域における地域創生に関わる課題の発見を行い、それを「フェーズフリー」の具現化の実践を通して、課題解決策の提案を行い、地域創生に貢献できる具体的な技術を体得することを目的とする。テーマは学生個人が設定し、担当教員の指導の下に、課題解決を図る。実際に地域に出かけて、課題を発見するとともに、学生自身の視点から課題解決に取り組む。

4.まとめ

フェーズフリーの概念が提唱されてから、行政から民間、個人を問わずそれぞれの立場、様々な分野でフェーズフリーを具現化する取り組みが進められている。社会の至る所にフェーズフリーな商品やサービスが、組み込まれている社会を夢想してみよう。フェーズフリーとは、新たな価値観を提供するものであり、概念を理解すれば誰もが参加可能で、イノベーションを創発することが強く期待されるものである。自然災害大国日本から、フェーズフリーを世界に発信する意義は、非常に大きい。